



学校だより

令和4年6月30日発行

立川市立若葉台小学校 校長 松村 利一
〒190-0001 立川市若葉町1-13-1
TEL 042-536-3971 FAX 042-534-6943
HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

「なぜだろう」「どうしてだろう」から始まる学び

校長 松村 利一

先日、立川市が市内の小学生に応募を募り実施している「立川市立小学校科学教育センター」の開講式に参加してきました。若葉台小学校からもたくさんの児童が参加していて、会場で声をかけてくれました。とてもうれしく思います。今年度は過去最高となる317人の児童の応募があったそうですが、その場に集まった児童たちは、「勉強は楽しいですか」の問いに、みんなうなずいていました。なぜ楽しいと思えるのか。それは、普段から「なぜだろう」「どうなっているのかな」「知りたいな」といった気持ちを持ち、それをそのままにせず「調べてみよう」「発見してみよう」というやる気、意欲があふれているからなのだと思います。

私は常々、「学び」は「やらされているもの」から「やりたいもの、やるべきだと思うもの」になってこそ、楽しいもの、充実したものになると思っています。5年生の社会科の学習で、「〇〇の生産量が多い都道府県はどこだろう」という授業を見ました。子ども達は一生懸命に資料を見て都道府県名を答えていました。

そして、どんなものがどこでたくさん生産されているかを知り、覚えます。しかし、そこで学びを終わらせずに「どうして、〇〇は××でたくさんつくられているのだろう」「別の〇〇はどこでたくさん生産されているのだろう。××とかではないかな。」などと、自ら新しい問いや予想を持ち、それをすすんで調べてみようとする意欲や態度こそが、学びを楽しくさせ、学びを深く



するのだと思います。子ども達の周りには、その気になればいろいろなことを自分で調べられるツールがたくさんあります。タブレットPCもそうですし、立川市は電子図書館の整備も進んでいます。子ども達の学びが、「なぜだろう」「どうしてだろう」という自分の問いから始まり、その答えを自分で見つけていく課題解決型の学びとなるように、学校では子ども達の意欲を引き出す「好奇心の種」をたくさん蒔き続けたいと思います。



左の写真は5年の教室に掲示されている「ノート」の紹介コーナーです。考えながら学ぶ子は、ノートの使い方、まとめ方がとても上手になります。上手な友達のノートを参考にして、みんなが「ノートの達人」になってほしいと願っています。家庭で取り組む自主学習のノートが達人になると、中学校での学び、そしてその先も続く「新しい学び」をととても充実したものにできます。